



### 新春法会開催について

1月12日(月)・成人の日午前10時から塩竈道院専有道場を会場に「新春法会」を開催しました。

新春法会定番のセレモニー終了後、新年会。今年は、鳥のミートボール鍋を楽しんでいただきました。



2026.01.12 新春法会(塩竈道院専有道場)

思いっきりいい歳にしましょう。参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

### 道院幹部講習会

2月1日(日)、塩竈道院専有道場研修室を会場に、今年一年、協力いただく幹部の講習会(助士助教会)を開催しました。道院運営上欠かすことが出来ない、「道院運営のコンプライアンス」と題して、講習を実施しました。

道院運営は、道院長一人では無理、幹部の皆さんの協力で可能となるもの、ご協力をお願い致します。

### 大澤隆管長 縁起

開祖の求めたものを求めて

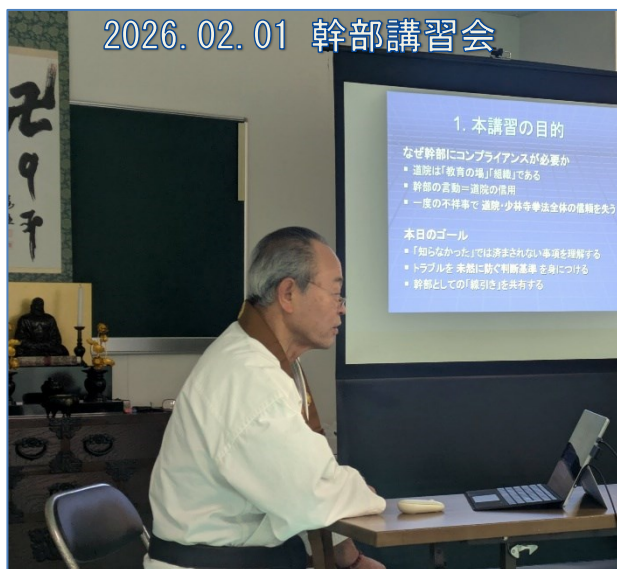
年が明けてから早一ヶ月が過ぎ、2月になりました。

開祖が1911年2月10日にこの世に生を受け、今年で生誕115年となります。私たちが少林寺拳法と出会い、師や仲間との縁を得て、今日も修練を続けられているのは、開祖の志と、それをつないでこられた先輩方のおかげにはかなりません。あらためて感謝の念を深め、開祖の願われた「人づくりによる国づくり」を胸に刻む月といたしましょう。

戦後80年を過ぎた今も、世界から争いが消える気配はありません。領土や利害、名誉や富、形は変わっても、根は「自分さえよければ」という心にあります。だからこそ開祖は、技を磨くだけではなく、まずは人の心の改造が必要だと説かれ、少林寺拳法という修行の道を示されました。力だけでも愛だけでも足りない。力と愛の調和を土台に、慈悲心と勇気をもって世のため人たために行動することが平和への道だと見据えておられました。

私たちは、とすると技の魅力に引かれ、開祖の言葉の都合いいところだけを切り取って満足しがちです。しかし、開祖の言葉を口にするだけで、人づくりが進むわけではありません。大切なのは、開祖が何を求め、

### 2026.02.01 幹部講習会



#### 1. 本講習の目的

なぜ幹部にコンプライアンスが必要か  
 ・道院は「教育の場」「道場」である  
 ・幹部の言動＝道院の信用  
 ・一度の不祥事で 道院・少林寺拳法全体の信頼を失う

#### 本日のゴール

- ・「知らなかった」は許されない事項を理解する
- ・トラブルを未然に防ぐ判断基準を身につける
- ・幹部としての「縁起」を共有する

今後の予定

- ◎2月 8日(日) 宮城県教区研修会(仙台銀杏町集会所)
- ◎2月15日(日) 幹部講習会(助士助教会:塩竈道院専有道場 研修室)
- ◎2月22日(日) 宮城武専・昇格考試(青葉体育館)
- ◎3月 8日(日) 特別稽古(塩竈道院専有道場)
- ◎3月15日(日) 審判講習会(青葉体育館)

何を成し遂げたかったのかを、自分の生活の中で具体的に問い直すことです。普段の何気ない会話に優しさを添える。困っている人がいれば、できる形で手を差し伸べる。家庭や職場、地域で協力し合える関係を築く。そうした一つ一つの積み重ねが、修練で培った身心を社会に活かし、周囲を明るくする確かな力となります。

ここに皆様に、今月あらためてお願いしたいことがあります。開祖の後についていくのではなく、開祖の求めたものを求めてください。開祖が残した技や言葉を追うだけ



2026.01.12 鍋料理で新年会

では、夢や希望は見えてきません。開祖が見つめた目的——「世の中を良くしたい」「平和で豊かな社会を実現したい」という願い——その向かう先を共に見据え、一歩でも二歩でも進んでまいりましょう。

2月は季節の変わり目でもあり、春へ向けて自然が静かに動き出す時期です。もし機会があれば、本山だけでなく、開祖の生誕地である岡山県美作市の記念館や、香川県多度津町の少林寺拳法発祥の地に足を運び、その空気に触れ、開祖の原点を確かめるのもよいでしょう。自分を変える一歩は、案外、そうした小さな行動から始まります。寒さは続きますが、春は確実に近づいております。どうかご自愛のうえ、日々の修練を怠りなく、身近なところから自他共樂の実践を広げてまいりましょう。

中国古典 紹介

かれし おのれ し ひやくせん  
彼を知り己を知れば、百戦して

殆うからず 『孫子』

あまりにも有名なことばなので、あらためて説明する必要はないかもしれない。ようするに主観的、一面的な判断をいまいめたことばである。

あらためて『孫子』に言われるまでもなく、



土曜日の稽古で ウォーミングアップ

事前調査の必要なことは、誰でも知っている。だま、頭で理解していても、いざ実行となると、以外にむずかしい。あとで「しまった」とホゾを噛むことのなんと多いことか。つまり、往々にして見込みちがいが生ずるのである。その理由は、三つ考えられる。

①調査不足 ②希望的観測 ③思いこみ  
こんな理由で判断を誤ることが少なくない。

戦争だけではなく、何か新しい仕事を始める始めるときにも、やはり可能なかぎり調査し、それを客観的に判断する冷静さを失ってはならない。